

# shindaiwa

## 取扱説明書

### 携帯用発電機

## EGM24L

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン

目次	頁
1. 安全上の注意	2
2. 仕様	4
3. 用途	5
4. 各部の名称	6
5. 装備	7
6. 運転方法	8
6-1. 始業前点検	8
6-2. 始動	10
6-3. 停止	11
7. 発電機の操作	12
7-1. 操作	12
7-2. 使用できる機器の容量	12
8. 点検・整備	14
9. 長期保管	17
10. 故障時の対応	18





注意：安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。


## はじめに

このたびは、新ダイワの携帯用発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。  
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
- 本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付してください。
- 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

-  **危険**：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。
-  **注意**：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。
- <注意>**：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『 注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 1. 安全上の注意



### 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



### 危険：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 出力コンセントや発電機の開口部に、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



### 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。



### 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。



### 注意：火災

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り、燃料ストレーナーの清掃など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。  
また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。
- 屋内配線に接続しないでください。

## 注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

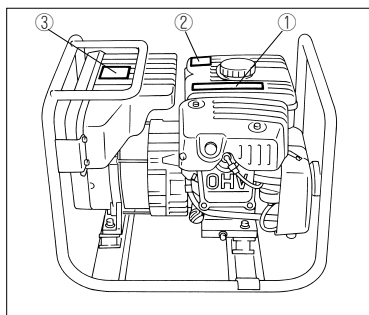
## 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。
- 回転部に棒・針金・ひもなどを入れないでください。
- 回転部に巻き込まれる恐れがありますので、長い髪は束ね、スカーフやアクセサリー類のぶらつく物は身に付けしないでください。
- 運転中に移動しないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

## ■ 警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| ①排気ガス中毒 | (品番KW5 6 1 2 8 AA)      |
| ②火災     | (品番KW5 6 1 2 9 AA)      |
| ③感電     | (品番1 9 4 0 2－0 0 1 5 6) |



## 2. 仕様

モ デ ル		EGM24L-A	EGM24L-B
発 電 機	発 電 方 式	回転界磁型同期発電方式	
	励 磁 方 式	自己励磁	
	電 圧 調 整 方 式	コンデンサ方式	
	周 波 数 (Hz)	50	60
	相	単相	
	定 格 出 力 (kVA)	2.1	2.4
	定 格 電 圧 (V)	100	
	定 格 電 流 (A)	21	24
	定 格 回 転 速 度 (min <sup>-1</sup> )	3000	3600
	力 率	1.0	
	定 格	連続	
	過 電 流 保 護	ノーヒューズブレーカー	
エ ン ジ ン	名 称	三菱GM182	
	型 式	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン	
	連続定格出力 (kW/min <sup>-1</sup> {PS/rpm})	2.8/3000 {3.8/3000}	3.3/3600 {4.5/3600}
	排 気 量 (ml)	181	
	燃 料 の 種 類	無鉛ガソリン	
	潤 滑 油 容 量 (L)	0.56	
装 備	始 動 方 式	リコイルスターター式	
	オ イ ル セ ン サ ー	有	
燃 料 タ ン ク 規 定 容 量 (L)	ス ロ ー ダ ウ ン	無	
		3.3	
連 続 定 格 運 転 時 間 (h)		2.3	2.0
外 形 寸 法 L×W×H (mm)		520×420×430	
乾 燥 質 量 (kg)		39.5	

### 3. 用途

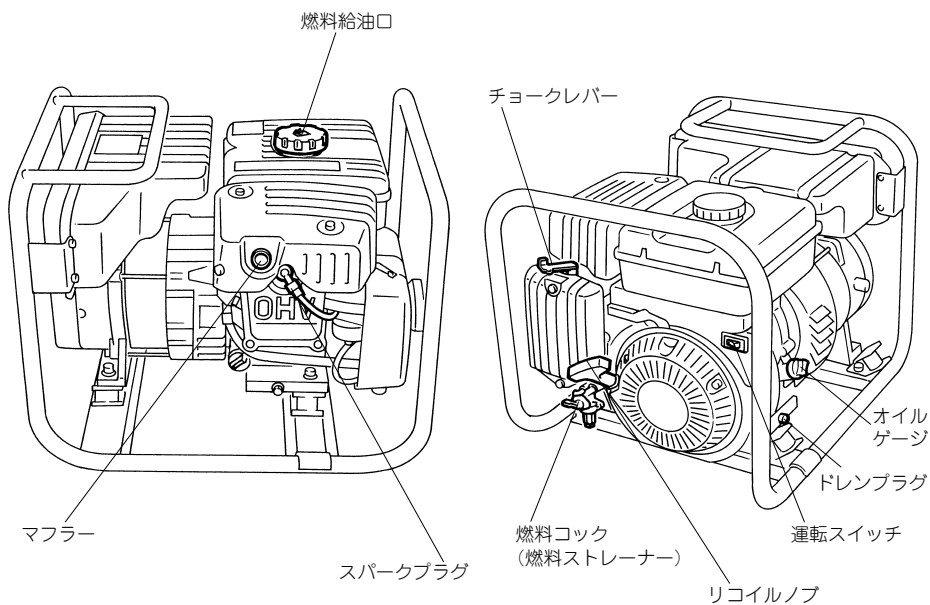
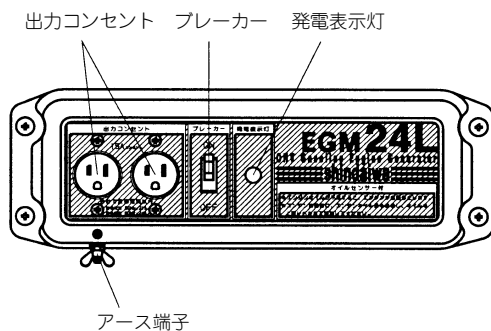
- 電動工具の電源
- 照明機器の電源
- 家電機器の電源



#### 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

## 4. 各部の名称



## 5. 装備

### (1) オイルセンサー



#### 注意：やけど

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。

エンジンが自動停止したときは、『エンジンオイルの点検（P 8）』の項を参照してエンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

#### <注意>

- オイルセンサーは、オイルの劣化を検知することはできません。  
エンジンオイルは、『エンジンオイルの交換（P 15）』の項を参照して定期的に交換してください。

### (2) ブレーカー



#### 注意：けが

- ブレーカー作動後、再度『ON』にするときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

電流を取りすぎると、ブレーカーが作動し『OFF』になります。

運転中に使用機器が停止した場合は、ブレーカーを点検してください。

ブレーカーが『OFF』になっているときは、つぎの操作をしてください。



使用機器のスイッチをすべて切ります。



ブレーカーを『ON』にします。

#### <注意>

- 『使用できる機器の容量（P 12）』の項を参照し、電流を取りすぎないように注意して使用してください。



### (3)アース端子

本機をアース（接地）する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。

## 6. 運転方法

### 6-1. 始業前点検



**注意：火災・やけど・けが**

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

#### (1)エンジンオイルの点検

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で（ねじ込まないで）確認してください。

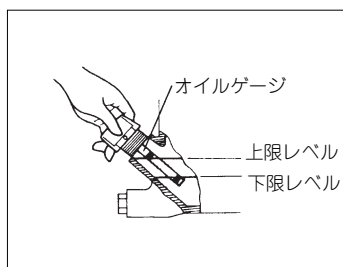
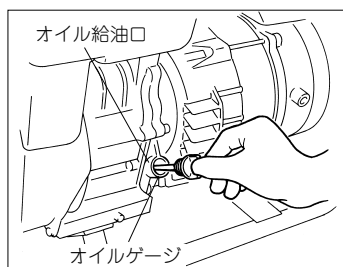
始業前には、オイルを上限レベルまで給油しておいてください。

オイル容量：約0.56L（全量）

オイル有効量：約0.23L（下限レベルから上限レベルまで）

#### <注意>

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。
- オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。



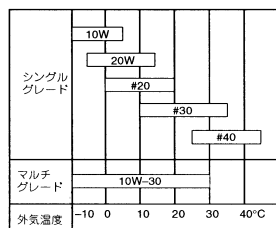
## ■エンジンオイルの選定

オイルは外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。

### <注意>

- オイルの品質は、S C 級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温度が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

## オイル粘度の選定基準



## (2) 燃料の点検



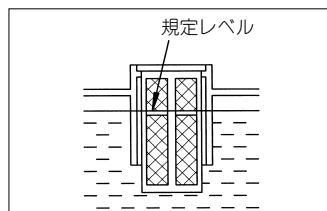
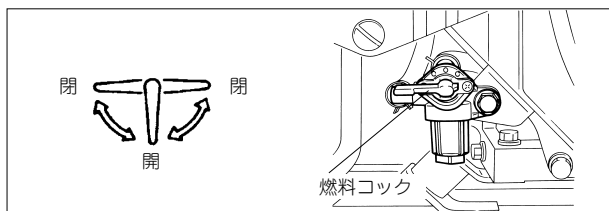
### 注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料が規定レベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

### <注意>

- 2ヶ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料は無鉛ガソリンを使用してください。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料は規定レベル以上給油しないでください。（規定容量：約3.3L）



## (3) 燃料・オイルもれの点検



### 注意：火災

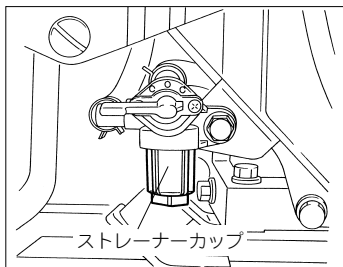
- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料配管接続部などからの燃料もれと、エンジンからのオイルもれがないか点検してください。

燃料もれの点検は燃料コックを開いて行い、点検後は必ず燃料コックを閉じてください。

**<注意>**

- ストレーナーカップがゆるんでいたら、増し締めしてください。



## 6-2. 始動



**危険：排気ガス中毒**

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



**注意：排気ガス中毒**

- 排気を行人や民家などに向けないでください。



**注意：火災**

- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所に設置してください。



**注意：けが**

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- 始動前に、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。



ブレーカーを『OFF』にします。



燃料コックを『開』にします。

↓3 運転スイッチを『ON』にします。

↓4 チョークレバーを『閉』にします。

**<注意>**

- エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョーク操作を加減してください。

↓5 リコイルノブを重くなるところ（圧縮点）までゆっくり引き、一度元にもどして一気に引きます。

**<注意>**

- リコイルノブは、いっぱい引ききらないでください。また、引いた位置から手放さずに、ゆっくりと戻してください。

↓6 エンジン始動後、チョークレバーを『開』にします。

**<注意>**

- 始動後、すぐにチョークレバーを『開』にするとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々に操作し、最後には必ず『開』側いっぱいにしてください。

↓7 約5分間、暖機運転をします。

## 6-3. 停止

↓1 ブレーカーを『OFF』にします。

↓2 約3分間冷機運転をします。

↓3 運転スイッチを『OFF』にします。

↓4 エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。

**<注意>**

- 運転スイッチを『OFF』にしてもエンジンが止まらないときは、そのまま燃料コックを閉じてください。数分後に停止します。  
その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店が弊社営業所に修理を申し付けてください。

## 7. 発電機の操作



### 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。



### 注意：けが

- 使用機器のスイッチが『OFF』になっているのを確認してから、出力コンセントに電源プラグを差し込んでください。



### 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

### 7-1. 操作

エンジン始動後、ブレーカーを『ON』にすれば、出力コンセントから100V交流電源が取り出せます。

#### <注意>

- 出力コンセント1個から取り出せる電流は、15Aまでです。
- 2個のコンセント合計で定格電流以内で使用してください。  
定格電流 EGM24L-A (50Hz) : 21A  
EGM24L-B (60Hz) : 24A
- 運転中は、ブレーカーが『OFF』でも発電表示灯が点灯します。

### 7-2. 使用できる機器の容量（目安）

電動工具や家電機器は、その種類・性能によって使用できる容量が異なりますので、次の表（目安）を参照してください。

使用機器	容量の目安（W：ワット）	
	50Hz	60Hz
白熱電球、電熱器など	2100	2400
蛍光灯、電動工具（整流子モーター）など	1100	1200
水銀灯（高力率型）（W×台数）	400×2	400×2
水中ポンプ（W×台数）	480×3	480×4
コンプレッサー（W×台数）	400×1	400×1

※容量の数値は、水中ポンプ・コンプレッサーは『出力』、他の機器は『消費電力』で表示しています。

※水中ポンプは「コンデンサモータ」方式の場合です。

### <注意>

- モーターを使用した機器は、機器の定格より大きい電力を必要とする場合がありますので、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。
- 水銀灯・水中ポンプ・コンプレッサーなどの機器を2台以上使用するときは、機器を同時に起動させないで、1台ずつ起動させてください。
- 水銀灯を消灯した直後に再点灯するときは、約15分間待ってランプが冷えてから点灯してください。
- 水銀灯は、多少チラツキが発生することがあります。

## 8. 点検・整備



### 危険：感電

- 必ずエンジンを停止してください。



### 注意：けが

- 必ずエンジンを停止してください。



### 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

#### <注意>

- 表中の●印はお求めの販売店が弊社営業所に申し付けてください。

項目		始業前点検	50時間ごと	200時間ごと	500時間ごと
1	各部の清掃・締付点検	○			
2	エンジンオイルの点検・給油	○			
3	エンジンオイルの交換	第1回目 (20時間目)	第2回以降 ○		
4	燃料ストレーナーの清掃			○	
5	燃料・オイル漏れの点検	○			
6	エアクリーナーの清掃		○		
7	スパークプラグの清掃		○		
8	スパークプラグの調整			○	
9	吸排気弁の点検・すり合わせ				●
10	燃焼室内の清掃				●
11	オーバーホール				●

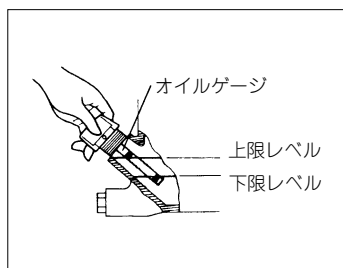
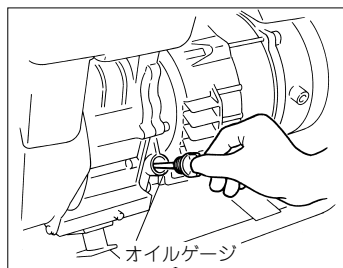
#### <注意>

- 燃料パイプや防振ゴムは1年ごとに交換してください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。

## (1)エンジンオイルの交換

初 回	20時間目
2 回目以降	50時間ごと

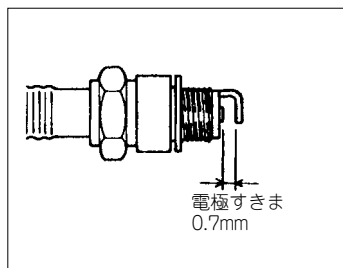
- ↓1 オイルゲージをはずします。
- ↓2 ドレンプラグをはずして、エンジンオイルを抜きます。
- ↓3 ドレンプラグを締め付けます。
- ↓4 エンジンオイルを上限レベルまで入れます。  
(約0.56L入ります)
- ↓5 オイルゲージを締め付けます。



## (2)スパークプラグの清掃と調整

清掃	50時間ごと
調整	200時間ごと

- ↓1 プラグキャップを取り、プラグレンチでスパークプラグをはずします。
- ↓2 スパークプラグが汚れているときは、プラグクリーナーかワイヤーブラシで汚れを落とします。
- ↓3 電極すきまを0.7mmに調整します。



### <注意>

- プラグは『NGK BPR6HS』を使用してください。



### (3)エアクリーナーの清掃

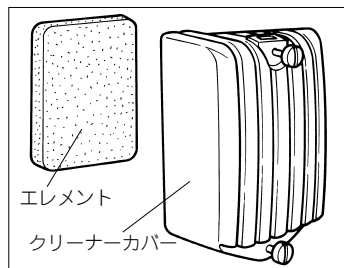
清掃	50時間ごと
----	--------

#### <注意>

- 汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用したときは早めに清掃してください。

↓1 クリーナーカバーをはずします。

↓2 エlementを取り出し、白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し、片手で固く絞って取り付けます。



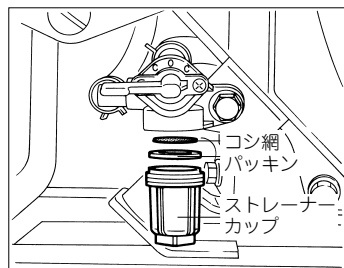
### (4)燃料ストレーナーの清掃

清掃	200時間ごと
----	---------

↓1 燃料コックを『閉』にし、ストレーナーカップを左に回してストレーナーカップをはずします。

↓2 ストレーナーカップ内の水やゴミを捨て、コシ網に付着しているゴミを取り除きます。

↓3 ストレーナーカップを燃料もれのないようにしっかり取り付けます。



#### <注意>

- ストレーナーカップを取り付けるとき、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してください。
- 取り付け後は、燃料コックを『開』にして燃料もれがないことを確認し、確認後は『閉』にしてください。

## 9. 長期保管

### ⚠ 危険：感電

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

### ⚠ 注意：けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

### ⚠ 注意：火災・やけど

- 火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を2ヶ月以上使用しないときは、次の手順にしたがって整備を行ってください。

- 1 燃料コックを『閉』にしてストレーナーカップをはずします。
- 2 燃料コックを『開』にして燃料タンク内の燃料を全部抜きます。
- 3 燃料コックを『閉』にして、ストレーナーカップを取り付けます。

### <注意>

- ストレーナーカップを取り付けるとき、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してください。



- 4 キャブレター下部の燃料ドレンネジをゆるめて、キャブレター内の燃料を全部抜きます。
- 5 運転スイッチを『OFF』にします。
- 6 エンジンオイルを交換します。
- 7 スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを約2～3 ml注入します。
- 8 リコイルノブをゆっくり数回引きます。
- 9 スパークプラグを取り付けます。
- 10 リコイルノブを重くなるころまでゆっくり引き、元にもどします。

↓11 エアクリーナーを清掃します。

↓12 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーなどをかけて保管します。

## 10. 故障時の対応

### ⚠ 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。

### ⚠ 注意：けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

### ⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。

点検しても正常にならないときは、お求めの販売店が弊社営業所に修理を申し付けてください。

症状	推定原因	処置
エンジンが始動しない	1. 燃料コック『閉』 2. 燃料の不足 3. 燃料に水やゴミが混入	1. 燃料コックを『開』にする 2. 燃料を給油する 3. 燃料タンク・燃料ストレーナーの水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	1. オイルセンサー作動	1. オイルを給油する
使用機器が作動しない	1. ブレーカー『OFF』 2. 使用機器の電流が定格を超えている	1. ブレーカーを『ON』にする 2. 『使用できる機器の容量』を参考にする

# 株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-6181

## やまびこ産業機械株式会社

〒 731-3167 広島市安佐南区大塚西6丁目2-11    Tel 082-849-2005 (代)

## やまびこ北海道株式会社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20    Tel 011-891-2249 (代)

## やまびこ東北株式会社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50    Tel 022-288-0511 (代)

## やまびこ東部株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-1091 (代)

## やまびこ中部株式会社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39    Tel 052-502-4111 (代)

## やまびこ西部株式会社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159    Tel 086-296-5911 (代)

## やまびこ九州株式会社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7    Tel 092-573-5361 (代)

## やまびこレンテックス株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-6777 (代)

ご用命の際はお願いいただいた販売店へご連絡ください。